

バレーボール部（女子）



春の高校バレー2022（令和3年度 第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会：東京体育館）より

部 訓

「心ひとつに」（全員の気持ちを一つにするという校歌の一節より）

「闘魂」（アグレッシブに勝利を目指す気持ちをもつ）

目 標

全国大会出場 中部・東海大会出場

活動日・時間

平日（月～金） 16:00～19:00 平日 1 日は休養日

土日祝日 午前もしくは午後の 4 時間程度 練習試合などは終日の場合あり

顧 問

尾畑 雅人 先生 （保健体育科）

岐山高校→筑波大学出身。本巣高校（現本巣松陽高校）、関商工高校で女子バレー部顧問を歴任し、総合学園高校を含め、3つの学校で、全国大会・中部大会・東海大会に40回以上出場。東海大会は2回優勝。

石原 淳 先生 （国語科）

初任の多治見高校、2校目の岐阜高校で女子バレー部顧問、その後、各務原西高校、海津明誠高校、大垣南高校で男子バレー部顧問、大垣南高校の途中から女子バレー部顧問。3年ぶりの女子バレー部顧問。

川村 奈々 コーチ

本巣高校→東京女子体育大学出身。小学校から大学・社会人まで選手として活躍。高校では春高バレーや全国高校総体（インターハイ）に出場。大学卒業後は、J A ぎふリオレーナで選手として活躍。

過去の実績

全国大会 春の高校バレー出場（平成19年度、21年度、令和3年度）

全国高校総体出場（平成21年度）

中部大会・東海大会は多数出場

中学生の方へメッセージ

昨年度は念願の「春の高校バレー」に出場することができました。岐阜総合学園高校は、生徒の夢の実現に向けて、サポートしてくれる素晴らしい学校です。充実した高校生活を送り、バレーボールに情熱を傾け、私たちと一緒に全国大会や東海大会を、目指しましょう。

岐阜総合

女子

12年ぶりV

全日本高校バレー 県代表決定戦

バレーボールの第74回全日本高校選手権県代表決定戦最終日は14日、山県市総合体育館で男女の決勝が行われ、男子は県岐阜商が11年連続18度目、女子は岐阜総合が12年ぶり2度目の優勝を果たした。大会は2009年までの全国高校総体の記録を引き継いでいる。

男子の県岐阜商は序盤から多彩なコンビ攻撃で優位に立つと、守りでも戦略的なブロックで相手のサイド攻撃を封じ、岐阜工をストレートで下した。

女子の岐阜総合は第3、4セットで、序盤にライト高瀬愛可を軸にした攻めで連続得点して連取し、連覇を狙った県岐阜商を3-1で破った。優勝校が全日本高校選手権「春の高校バレー」（来年1月5-9日・東京体育館）に出場する。

▽決勝

県岐阜商 3
252525
201415
0 岐阜工

▽決勝

岐阜総合 3
25252225
12212518
1 県岐阜商



女子決勝・岐阜総合×県岐阜商＝優勝を決め、喜ぶ岐阜総合の選手たち＝山県市総合体育館

V ストーリー

勝負どころで連続得点

女子の岐阜総合は要所で連続得点が光り、5月の県総体で敗れた県岐阜商を撃破しての「春高」切符。主将のセッター大矢愛梨は「(劣勢で)

我慢する力がついたことで、相手の勢いに押されても押し返せるチームになった」と進化に胸を張った。第1セットを奪うも、続くセットは一度も追い付けないまま落とした。県総体では、第2セットを奪われたのが響き敗退。「力はほぼ互角。3セット目がポイントだった」と尾畑雅人監督。大矢は「ズパーエース」のライト高瀬愛可にボールを集めた。「高瀬(のスパイクが)が決まり出すと、リズムを持ってこれる」。第1セットでの7連続

得点も高瀬が軸だった。

迎えた第3セット序盤、高瀬がブロックをもとめせずスパイクを決めるなど5連続得点。そのままセットを奪うと、第4セットは序盤に9連続得点して相手を大きく引き離し、逃げ切った。尾畑監督も「いつもならここまで連続得点はない。集中していた証拠」と手放しでたたえた。高瀬ら主力の多くが1年時からコートに立ってきた。最初に挑んだ県総体では地区予選敗退。「どん底」から頂点まで上り詰めた。「ここまで悔しいことが多かったけど、バレーを楽しむことで、落としそうなボールでも最後の最後まで拾いに行く姿勢も出てきた。全国でも1点1点に喜び、楽しんでプレーしたい」。大矢はチーム全体の決意を口にした。(古家政徳)